



8月22日に新潟地方気象台が発表した1か月予報（8/24～9/23）では、向こう1か月は暖かい空気に覆われやすいため、気温は高く、日照時間はほぼ平年並みの見込みです。降水量は、低気圧や前線、湿った空気の影響を受けやすいため、平年並みか多い見込みです。

稲作技術情報

○出穂期別収穫期の予想

南魚沼農業普及指導センターより（8/21 時点）

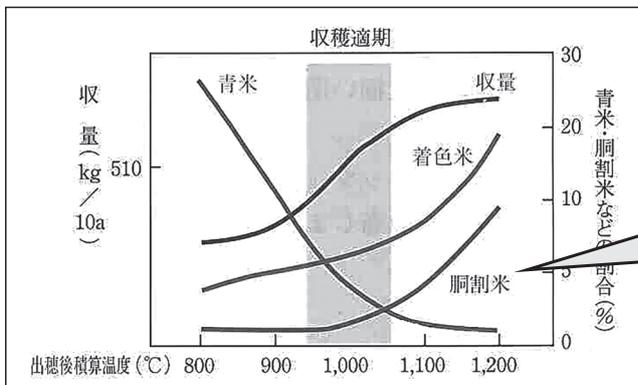
コシヒカリ	出穂期	平坦地（標高185m） 950℃	高標高地（標高340m） 1,000℃
	8月1日	9月6日	9月11日
8月4日	9月10日	9月15日	
8月7日	9月14日	9月19日	
8月10日	9月18日	9月23日	
8月15日	9月25日	9月30日	

- ・今年も昨年と同様に収穫後からの平均気温が高く推移し、高温年となることから、平坦地では積算温度950℃を目安に刈り取りを行いましょう。
- ・高標高地では、平年通りの積算温度1,000℃を目安に刈り取りを行いましょう。
- ・今後の気象により前後する場合がありますので、積算温度を目安に、必ず籾の黄化率を確認して刈り取り判断をしまししょう。

**作業面積に応じて、収穫作業のピークが収穫適期となるように努めましよう！
また、収穫作業の効率化を図るためにも、カントリーの利用をご検討ください。**

○刈り遅れによる品質低下を防ぐ！

刈り遅れは、着色米・胴割米が増加し品質低下を招きます。圃場ごとの収穫適期を把握することで、品質低下を防ぐ一因となります。



早刈りでは、青米の発生が多くなり、刈り遅れでは、着色米や胴割米といった品質低下の要因が増加します。

近年、刈り遅れを要因とした胴割粒の発生が見受けられます。胴割粒は品質・食味に大きく影響を与えるため、積算温度計やアグリルックの積算温度機能（あぜみちNo8で紹介）を活用し、適期刈り取りに努めましよう。

○穂の黄化率(穂の外観)を確認し適期収穫!

収穫適期の10~7日前で、穂の黄化率が50~70%となります。

収穫適期は85~90%が黄化し、穂の基軸部分に若干緑色が残っている頃です。

「積算温度」を目安に「籾の黄化率」を確認して収穫判断をお願いします!

※黒塗の籾：黄化していない籾



黄化率70%



黄化率80%



黄化率90%

○適切な乾燥・調製で高品質・良食味米の出荷!!

乾燥作業のポイント

- 籾水分のバラツキが大きい時は、熱風温度を1~2ランク下げ、2段乾燥を行いましょう。
- 籾水分が高い時は、バーナーを点火せずに、2~3時間通風乾燥を行い、通常の状態になったら、熱風乾燥を行いましょう。
- 異なる圃場の生籾を、1度に乾燥する場合は同じ刈取日でも籾水分のバラツキがあるため2段乾燥を行いましょう。
- もち米の場合は、2段乾燥を行い、低温乾燥でゆっくりと仕上げ、過乾燥に注意しましょう。
- 胴割れ米は、水分が高い生籾の急激な乾燥や、過乾燥が原因で発生が助長されます。低温乾燥や2段階乾燥等、生籾の状態に合わせた乾燥方法を選択し、胴割れ米発生を防止しましょう。

※2段乾燥…平均水分値18%前後で一旦乾燥を休止し、休止中に籾水分のバラツキを補正し再乾燥すること

稲刈り後は近隣道路への配慮をお願いします。

農業機械の走行による道路の泥が散見されるため、圃場から出た際には泥を払う、機械から落ちた泥を清掃するなど近隣への配慮をお願いいたします。

～県からのお知らせ～

スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)を持ち込まない!

- 生育初期の稲等を加害し、近隣県でも被害が問題になっています。
- ジャンボタニシとは、一度でも侵入・まん延すると根絶は困難になります。
- 疑わしい貝や卵塊が発見された場合は南魚沼地域振興局生産振興課(025-772-3918)までご連絡をお願いいたします。



園芸技術情報

～収穫に向けて! 秋冬野菜の病害虫防除～

秋冬野菜は被害が見える前に、病害虫防除を行うことがとても重要です。下記の被害写真を参考に防除を行い、病害虫被害を減らし見た目もきれいな秋冬野菜を作りましょう。また水和剤・顆粒水溶剤・水溶剤を使用する際は展着剤も使用し、薬剤効果を高めましょう!

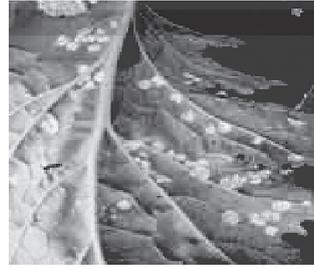
★ダイコン防除例

①主要病害被害

軟腐病



白さび病



病害名	薬剤名	使用時期	使用倍率	使用回数
軟腐病	スターナ水和剤	収穫14日前まで	1,000倍	5回以内
	バリダシン液剤5	収穫7日前まで	500倍	4回以内
白さび病・ワッカ症	アミスター 20フロアブル	収穫14日前まで	2,000倍	3回以内
軟腐病・白さび病・黒斑細菌病	ヨネボン水和剤	収穫7日前まで	500倍	4回以内

②主要害虫被害

キスジノミハムシ



アブラムシ



ハスモンヨトウ



害虫名	薬剤名	使用時期	使用倍率・量	使用回数
ネキリムシ類・タネバエ・コガネムシ類幼虫・ケラキスジノミハムシ	ダイアジノン粒剤5	播種時	40~60g/10㎡	1回
アオムシ・コナガ・ハスモンヨトウ・アブラムシ類	エルサン粉剤2	収穫30日前まで	30g/10㎡	2回以内
キスジノミハムシ	スタークル顆粒水溶剤	収穫7日前まで	1,000倍	2回以内
アブラムシ類・ダイコンハムシ			2,000倍	
アブラムシ類・ダイコンハムシ	ダントツ水溶剤	収穫7日前まで	2,000~4,000倍	2回以内
ハイマダラノメイガ(シンクイムシ)	アフアーム乳剤	収穫7日前まで	2,000倍	3回以内

※上記農薬は「キャベツ」・「ハクサイ」にも使用可能ですが、

使用倍率・量、使用時期、使用回数等異なりますので、登録内容を確認してからご使用ください。

★ネギ防除例

①主要病害被害

黒斑病



べと病



さび病



軟腐病



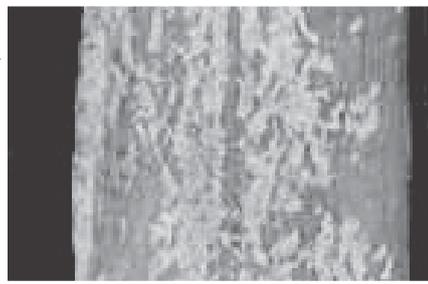
病害名	薬剤名	使用時期	使用倍率・量	使用回数	
軟腐病	予防	オリゼメート粒剤	土寄せ時但し、 収穫30日前まで	60g / 10㎡	2回以内
	予防＋治療	カスミンボルドー	収穫14日前まで	1,000倍	2回以内
		バリダシン液剤5	収穫前日まで	500倍	2回以内
		スターナ水和剤	収穫7日前まで	2,000倍	3回以内
黒斑病・べと病・ さび病	予防	ダコニール1000	収穫14日前まで	1,000倍	3回以内
		ヨネポン水和剤	収穫7日前まで	500倍	4回以内
黒斑病・べと病・ さび病・葉枯病	予防＋治療	アミスター20フロアブル	収穫3日前まで	2,000倍	4回以内

②主要害虫被害

ネギハモグリバエ



アザミウマ類



害虫名	薬剤名	使用時期	使用倍率・量	使用回数
ネギハモグリバエ・ ネギアザミウマ	ダントツ粒剤	収穫3日前まで	30～60g/10㎡	4回以内 ※粒剤・水溶剤 合わせて
	ダントツ水溶剤		2,000～4,000倍	
	ベストガード粒剤	収穫前日まで	60g/10㎡	3回以内 ※粒剤・水溶剤 合わせて
	ベストガード水溶剤		1,000～2,000倍	

- ・ 農薬を使用する際は、登録作物名・使用方法・使用回数・倍率等を確認し正しく使用しましょう。
- ・ 掲載している資材について、JA資材店舗在庫切れの場合は取り寄せとなります。ご了承ください。

※病害写真は、農文協「ルーラル電子図書」より引用。

次号「あぜみち」予告

■ 稲作…土づくりについて
※園芸は次号お休みです。

ご不明な点がございましたら、JA みなみ魚沼営農指導課までお問い合わせください。

◎アグリセンター大和 Tel777-3786

◎アグリセンター六日町 Tel773-6121

◎しおざわ基幹センター Tel782-1171